

= 訳注 =

「宝の如き水銀を調合する物語。『希有の不死を成就する耳の飾り』という書」(*rin chen dngul chu'i sbyor ba'i rtogs pa brjod pa'i gtam. ngo mtshar 'chi med grub pa'i rna rgyan.*)¹

中央ユーラシア歴史文化研究所（石濱裕美子、谷田伸治、西脇正人、福田洋一）

〔解説〕

近代以前の世界において、水銀は他の物質とは異なる特別なものと考えられていた。錬金術師は水銀と様々な金属を反応させることを通じて金ができると信じていたし、道教においても水銀を精錬することを通じて不老不死を得られると考えられていた（錬丹術）。チベット密教においても、水銀は猛毒で、定まらない色や形を持ちながらも精錬した後は甘露となると考えられ、これは煩惱に満ちあふれながらも修行の後には光り輝く悟りの意識を得る人の心に通じるため、水銀の精錬作業は精神的な修練の意味も付されていた。

チベット医学はインド医学のアーユル・ヴェーダとチベット仏教が融合した思想を持ち、チベット高原の多様で豊富な動植物・鉱物を薬材としたチベット薬で広く知られる。チベット薬の薬材の中でも水銀は「大地のエッセンスを集めた王」、薬材の金剛杵・金剛石と呼ばれる最強の薬材とされ、解毒水銀（ツォトゥチェンモ）をベースとして様々な薬材を調合して製造される丸薬は、チベットの薬の中でも宝に等しいものとされてきた。

チベット医学における伝統的な水銀の概念については『甘露本草明鏡』「水銀」の項にまとめられており、本テキストと同種の水銀を解毒する作業の記録も『三種珍貴藏薬秘方』などを始めとして現在に至るまで数多く作られている。本テキストはこれらの作業記録の中でも特によく知られているものであり、作者は無宗派運動の系譜に連なる大学者ミパン²である。ミパンは、チベット暦水猿（1872）年に、カム（東チベット）のニャクシュー（nyag shod）地方のクンキャブ要塞において、ダライラマ政庁の官僚ツェリンベルデンを施主とし、ミパンの師コントゥル1世を導師とした解毒水銀の作成過程を観察して本テキストを記した。

水銀解毒作業の伝統は、師匠から弟子へと伝えられてきたもので、その歴史は本テキストの冒頭にも簡単に触れられている。一般に、チベット医学では水銀薬の伝統は、密教の女尊ヴァジラ・ヨーギニー（*rdo rje mal 'byor ma*）に始まるとされ、大乘仏教の聖者ナーガールジュナ³を経て、13世紀末にチベットのウルゲンパ⁴と、その弟子のゲルワ・カルマパ3世ランチュン・ドルジェ（*karma rang byung rdo rje*; 1284-1339）

に至り、それから十数人の師を経て、著者の師ジャムヤン・ケンツェ・ワンポ⁵とコントゥル・ユンテンギヤムツォ・ロドゥータージェ⁶に至った。コントゥルはこの1872年の解毒水銀の作業の導師を勤めた人物であり、彼自身も記録(TKN)を残しているため、和訳の際には参考にした。また、西脇が青海省蔵医薬研究院(mtsho sngon zhing chen bod sman zhib 'jug gling)のセルサンキヤブ(gser zangs skyabs)、タクブムゲル(stag 'bum rgyal)両氏にテキストの不明な箇所を質問した結果も参考にした。しかし、実際の作業を実見しないと分からない部分も多いため、以下の訳注には多くの誤りがあるかと思うが、それは偏に訳者らの未熟さによるものであることをお断りしておく。

[テキスト和訳]

一、帰敬偈⁷

(p.486) oM a tha⁸。吉祥なものであり、輪廻から涅槃に至るまでのあらゆる存在⁹の中でも至高(無上)のもの、文殊('jam dpal dpa' bo)と名高き、あらゆる勝者(仏)の智そのもの(ye shes sems dpa')たる依怙尊よ、[私の著述を]護りたまえ。

その無垢の名声の月光は、
輪廻と涅槃の領域を普く満たし、
あらゆる勝者(仏)の悲(憐み)が形になった、
金剛杵をもつ方(rdo rje 'dzin) ティンレー・ギヤムツォ(ダライラマ12世)¹⁰が、勝利しますように。

内外の縁起¹¹が整ったことによって、
比類なき最高(最勝)の薬が完成した春に、
殊勝なる物語を編むことを、
諸賢者よ、慈しみによって加持したまえ。

それについても、ここで『聖カーラチャクラ・タントラ』¹²等の密教経典の密意と、『四部医典』¹³の説に則り、「宝のごとく貴い解毒水銀(btso bkru chen mo)を作る聖なるヴァジラ・ヨーギニー¹⁴の教え」を成就したウルゲンパ(u rgyan pa < u rgyan rin chen dpal; 1230-1309)から始まり、現代の我々の師¹⁵に到るまで、途切れることのなかったこの思想と修習(思想の内容を心に繰り返しなじます実践)の伝統が、我々の目をはじめとする五官の対象となったものを要約して物語ろう。

「5つの素晴らしい条件」¹⁶という項目に分けて述べるならば、聖者の宝の数〔7

項目〕¹⁷で理解すべきである。

二、場所が素晴らしいこと

(p.487) まず〔水銀を調合するための〕儀式を行った場所(bca' gzhi)の円満なること。

一般に¹⁸、「命あるもの」(有情)〔の意識に〕はそれぞれの習気と様々な業によって展開する無数の世界が現れているが、このうち、特に娑婆世間の地、すなわち、釈迦獅子(釈迦牟尼)が悟りに向かう決意をし、祈願によって自分のものとされたこの地には、四大部洲¹⁹がある。

こ〔の四大部洲〕の一つ、南方にジャンプという木に象徴される大陸(瞻部洲)があり、それが6大国などに分裂した中から出てきたボタの国(チベット)というものは、〔菩薩の〕化身の法王²⁰が四方の賢者や行者を残らずお招きして、正法(仏法)を太陽のように輝かせた特別な地である。

この中でも、四大大河²¹と6つの分水嶺(sgang)によって特徴づけられたドカム(東チベット)の地がある。この中に8種の美質を持つ水(八功德水)²²の月水²³が滔々と流れ、金沙江('bri chu)と月水、2つの分水嶺の間に入った、第二の仏ペマトーテンツェル²⁴の加持をうけた最勝の隠れ郷、4つの大溪谷に18大谷(rong bzhi shod chen bco bryad)と名高きものの内にニャクシュー²⁵のアヅィルンという地がある。この地は密教の悟りを得た(持明者)最勝なる人々によって加持されており、たくさん聖地と埋蔵教説²⁶の蔵によって彩られている。

ヴァイロチャナ大翻訳官²⁷の化身である法王テルダクリンパ²⁸が『金剛頂経』の教えを守る聖地として、金剛の御言葉によって讃嘆しており、特に、ランド翻訳官コンチョクチュンネー²⁹の智慧の幻化網の遊戯(化身)、〔ニンマ派の忿怒尊〕タクトゥン・ベマタクポ(khrag 'thung padma drag po)と等しき大ヘルカ・ロンセル・ドガクリンパ³⁰と、その後現れた全ての行者の王であり化身の埋蔵教説発掘者サムテンリンパ³¹の後継者、リクジン・トゥトプリンパ³²等が、器世間と情世間の大きいなる智慧の「拠り所」(器世間)と「それに拠るもの」(情世間)として完成した大地の滴³³、チャクドゥ・リナン³⁴と名高い地である。

すなわち、この地はある時期、悪しき祈願の結果が時満ち、衆生を害する性質を持つ猛々しいものが支配していたが、3つの根本³⁵と、守護女尊の加持の力と、全ての「命あるもの」(有情)の善行と、白い方向(仏教)を守る諸天の軍によって促された「天の命によって成立したガンデン宮」(ダライラマ政府)の千万の神軍の群によって打ち砕かれて、平和の2つの法(政治と宗教)の太陽の光と月の光が一時に輝いた³⁶。

この時、〔ダライラマ政府は〕法律を執行する執政官について、施主と応供僧お二人の月と太陽のごとき御命令を宝冠のように頭に巻いた法官の蓮華座が、四辺の全ての人々の頭上に君臨することとなったのである³⁷。〔韻文省略〕

(p.490) その時、そのような名声の音律に喜んだ龍がわだかまったような地形が特徴となり、善き地相となったドゥクモ要塞³³と名高き聖地は、他国によって分割されたこともなく、〔ダライラマの〕御業績の力の輪が転じる地³⁴である。

堅固な要塞は四方の山の頂にある堅固にして高い擁護要塞によって囲まれており、付近は数百の美しい建物によって飾られている。その中央には荘厳で美しい光り輝く宮殿があり、その内外に歪な箇所はなく、堅固にして優美で広大である。宮殿には、他国の軍を打ち砕くために、鋭い兵器を落とす武器穴がたくさん開けられており、要塞の設備として利用される井戸等もある。様々な言語・衣服 (gsa) の人々で普く満ちており、猿、オウム、熊、鹿等のたくさんの動物の群が人と互いに慈しみあっている。

たくさんの如来 (仏) の身体の拠り所 (仏像)、言語の拠り所 (仏典)、心の拠り所 (仏塔) があり、宗教と政治のたくさんの美質によっていや高さ、聖者たちが憩うガンデン・クンキャプチュール要塞³⁵と名実備わった吉祥なる寺、仏教と政治が一致した場、様々な富に満ちた、四方に勝利した³⁶吉祥なる新しい光がさらに増していく大宮殿において、〔水銀を〕調査したのである。器具の準備は欠けることなく眼前に集められて、貴き水銀を成就する作業に入ったのである。〔韻文省略〕

三、施主が素晴らしいこと

(p.493) それから以上のような地で、〔水銀を〕成就した施主〔について述べよう〕。前述したように、チベットと大チベット³⁷と、大支那とモンゴルをはじめとする様々な言語のたくさんの王国に、貴い釈迦牟尼の教えをさらに盛んにさせていく大王にして、広き大地の人々を仏法に則って護るものとして永遠の天の命令によって即位した方、全てのあらゆる種類の衆生のただ一人の依怙尊にして救助者 (dpung gnyen) となった方、最勝の聖者、慈悲の自在者、僧衣によって遊戯された方、仏法の自在者にして法王なる方、一切智者ダライラマ持金剛仏³⁸、その名声の勝利幡が三有 (地上、地下、天) において高さ方がいる。この方 (ダライラマ12世) の三密³⁹の智慧の光に加持された天下の自在者、ガンデンポタン・チョーレーナムゲル⁴⁰の御業績の陽光を、ドカムの地において導く馬車であり、2種類の聖典⁴¹の般若の智慧が蓮華のように花開き他には推し量れない智慧を持つ方、仏法が栄え、宝が満ちあふれ、五欲を享受し、仏法に帰依して仏の境地を得るといふ四種の栄光 (sde bzhi < phun tshogs sde bzhi) によっていや高さ方、福德の力と勇気の殊勝なることによって全ての人々を圧倒する方、大総監 (spyi khyab chen po) ツェリンベルデン (tshe ring dpal ldan)⁴²、その方の美名は雷音 (dbyar skyes kyi rnga) のごとくに普く轟いている方、その方が〔水銀を〕成就したという、施主の素晴らしいことであった。

それについても大法官この方は、諸々の臣民を十善の法⁴³に導いて、強力な命令の力によって諸方の全ての人々が野蛮な振る舞いをやめ、互いに争うことのできない性

格になったので、全ての人々が安楽になった。また、特に人々の利益と安楽の根本である貴い勝者 (仏) の教えを護持するもの (僧) が集まる場を作り、彼らが顕教の学習と密教の実践修行を行い、仏の教えの根本である別解脱成 (上座部の二百五十戒) を実践する伝統を打ち立て、衰えることなく盛んになるようになされた。

また、勝者 (仏) の身体の拠り所 (仏像)、言語の拠り所 (仏典)、心の拠り所 (仏塔) を建立する等、この地を黄金時代 (円満時) の幸福に変えたあらゆる善行と権勢の業績のある方である。

この機会に沢山の人々に命を授け、病の苦しみを鎮める宝のような最高の薬を完成させた次第は以下のようであった。

「菩薩・大師たちも〔利他を〕祈願の対象となさり、修行道の過程においても、利他に励むことを主として実践する」と大乘経典に説かれており、このことは正しい論証因によっても証明されている重要なことである⁴⁴。特に解毒水銀の実践の伝統は消えゆく寸前であったので、右雪 (チベット) を利そうとの素晴らしい御考えに導かれて、一切の薬の王である「宝のごとき大黒丸」(rin chen ril nag chen mo) 等の処方 (sbyor sde) のベースとなる解毒水銀を御造りになられたのである。

かくのごとき〔水銀を〕解毒する材料〔の準備〕は、まず優れた動機と善行と権力を持つ大人物以外にはなしえないことであり、凡人が果たすことは難しいのであるが、ここにおいて、〔大法官は〕水銀と対治 (反対の性質を持つもの) の薬等を、中途半端にでなく大量に、たちまち、いとも簡単に揃えて下さったのである。〔韻文省略〕

四、導師が素晴らしいこと

(p.497) それから、かくのごとき施主が招聘された薬を調査する方、医者の中でも長たる方である導師が素晴らしい。

〔この導師は〕大五明 (rig gnas che ba lnga) とそれに付随する海のごとき広大な学問の道を極めた大学者にして、全ての宗派の太陽 (gsal byed) であり、気高く、堅固であり、賢く、有益であるなど4つの性質をもつ、菩薩勝者子⁴⁵の清浄な学処 (菩薩戒) によって精神を豊かにし、十真如 (de nyid bcu) 等の、つまり、顕教と密教の無量のテキストを説いて盛んにされる大阿闍梨の資格を普く備えた方である。〔この方とは〕全てのマンダラの主である文殊の化身、リンポチェ・カルマ・ガワン・ユンテン・ギャムツォ (karma ngag dbang yon tan rgya mtsho) である⁴⁶。

〔この師は以下のように経典に予言されている。〕『聖如幻三昧大乘経』には

これ (この経典) を有するものは指導者となり、

智慧は無辺⁴⁷ 智慧は最勝になる。

十方の百億の諸仏が気にかけてくださる。

百の経典の内容を研究することに無量であり、

この経典（『聖如幻三昧大乘経』）を修行するものは、
尽きることなき総持（真言陀羅尼）の力を得るであろう⁵³¹。

『楞伽経』には

その次〔の生〕にいたった時、
導師、智慧という名の、
5つの知るべきことを示す方、
大勇者が現れるであろう⁵⁴。

と〔説かれている〕

『三昧王経』には、

その方の手には最勝の三昧があり、
無辺の名声をもつ勝者弥勒のごとく、
有情の利益を増すであろう、と、
無辺の智慧を私は予言する⁵⁵。

と説かれている。

『幻化網金剛薩唾の御心の滴のタントラ』には

有雪国という名の世間に、
ペマイニンポ・クンガーと
ロドゥーターイエー等が
護持する教えが盛んとなる⁵⁶。

と〔ある。このように〕正しく悟りを開いた仏（正等覚仏）、比類なき無執着の光明、
釈迦獅子と報身の仏である持金剛仏の栄光の喉を通じて「無辺の智慧」（ロドゥーター
イエー）の御名前前の調べが予言されているのである⁵⁷。権威であり、かつ、智慧と法
の目⁵⁸を持つ聖人達も「そうである」と彼を推戴する祝詞が白い花の大雨のように降
りそそいでいる。

贈部州の法の大馬車である方⁵⁹ 第二の仏ベマトーテンツェル（パドマサンバヴァ）
も「ヴァイロチャナ翻訳官の智慧の幻化網の遊戯である」と金剛の御言葉によって称
賛なされたそのままに、無比の賢者にして行者であるこの方（ロドゥーターイエー）
は澄んだ月のごとき笑顔でご覧になり、弟子の群に普く取り巻かれていらっしやう。
〔韻文省略〕

五、眷族が素晴らしいこと

（p.501）それから、医者の六因⁶⁰を備えた、医学聖典（'tsho byed gzhung lugs）を
説く円満なる眷族たちが、師をとりまいていた。例えるならそれは星宿に取り巻かれた
満月のように師は坐していた。

それについても、参集した眷族たちはアーユル・ヴェーダを奉じるものたちであり、
真珠の数珠をしきつめた海のごとく大勢であり、四種の栄光と十善によっていや高い
王国全土から⁶¹、とりわけベルブン・トゥブテン・チューリン寺（dpal spungs thub
bstan chos 'khor gling）とゾンサル・タシラツェ（rdzong sar bkra shis lha rtse）などの
様々な地から集まってきた⁶²。みな智眼が輝き、分析作業に携わる、戒律を正
しく守った聖財の人数（7人）とともに、〔師は〕宝なる水銀を成就する作業に着手
したのである。〔韻文省略〕

六、作業の対象となる水銀が素晴らしいこと

（p.502）それから、かくのごとき〔水銀を浄化する〕地、眷族、師が素晴らしい状
況において、〔作業の〕対象となる円満なる素材は白クング⁶³である。その性質は毒
性があり、かつ、荒い性質をもつが、よく成就すれば素晴らしい功德（美質）をたく
さん持ち、衆生の命を養う無比の甘露となる。〔韻文省略〕

七、時が素晴らしいこと

（p.504）それから甘露精（水銀）の性質をいつ成就したかという「時が素晴らしい
こと」について述べよう。一般に、〔この水銀浄化が行われた時代は〕暗黒の劫では
なく、4番目に現れる指導者（釈尊）が法輪をまわす光りの賢劫⁶⁴、その中でも仏の
教えが第6期の500年期⁶⁵に入った戒律の時代、顕教と密教の殊勝なる教えが太陽の
ごとく遍満する15ラブチュン⁶⁶のアンギラ⁶⁷という水猿（1872）年が明けてチベット
暦3月（nag pa zla ba）に、この3月とはダーニヤカタカ（Skt. dhānyakāṭaka）の仏塔
において釈尊が『カーラチャクラ根本タントラ』を説かれた吉日と関係する⁶⁸ 春の栄
光が頂点にある時である。この時に、美しい雷の音が轟き、空は瑞雲の華蓋に覆われ、
地には四大⁶⁹の寒暑のバランスがとれ、内の宴（体内の風の巡り）が盛り上がる自分
の第1日目⁷⁰、曜（gza'）と星宿（skar）の組み合わせが吉祥となる吉日の日の朝、
日輪が最初に地平線をでた⁷¹ 吉祥なる状況のもと、作業を開始し、以後順に作業が行
われたのである。〔韻文省略〕

八、水銀の解毒作業の始まり

(p.506) それから、かくのごとき地、時、導師、眷族、対象という5つの素晴らしい因縁 (rgyu rkyen) が整った状況において、宝のごとく貴い水銀の性質を円満なる方法によってどのように毒を消して浄化するか ('dul sbyong)、その様子を述べよう。

それについては、〔水銀の〕欠点である非常に流動的な性質と対治 (反対の性質を持つもの) となるのは「3つの辛いもの」(tsha ba gsum)⁷²、「3つの酸っぱいもの」⁷³、塩類 (tshva sna)、ニンニク (sgog)、油 (snum)、肉 (sha)、酒 (chang)、「5つの尿」⁷⁴、「〔水銀の毒を〕尽くす8つの土」⁷⁵、「〔水銀の毒を〕縛り付ける8つの金属」⁷⁶と「妃と抱き合うこと」(硫黄と反応させること) 等〔である。それらによって〕順次「汚れを除く」、「毒性を排出する」、「エッセンスを呼び込み、様々な方法によって〔毒を〕縛り付ける」等の作業を連続と絶えず修めていく。

このうち、まず、前述した時日に水銀は394両⁷⁷に達し、「3つの辛いもの」である干姜 (sga skya)、葶菈 (pi pi ling)、胡椒 (pho ba ris) 40両ずつをそれぞれ粉にひいて、絹のふるいにかけてさらに細かくした粉を、水銀1両に対して「3つの辛いもの」をそれぞれ1匙ずつ計って加える。つまり、水銀1両に「3つの辛いもの」をそれぞれ1匙、合わせて3⁷⁸匙ずつ量ったものである。間違えないように、テキストの述べる量に合わせること。

粉に弾力が出るくらいに水を加え、それを袋に入れて地面に平たく広げて、〔できあがった7袋の〕口を堅く縛る。それを7人の人が列に並んで、結跏趺坐して左手は下に右手は上にして常に温かくなるように、ゆっくり揉む作業に入ること。

どれだけ揉めばいいかについて、1日と説くものもあるが⁷⁹、今回は人一人につき56両余りを〔揉まねばならず〕仕事がついのので、2日にわたって揉みこすったのである。

このように作業を始めたまさにその時、雲は輝く縁取りのある荘厳な天蓋の形となり、甘露と等しき雨⁸⁰の滴がぱらぱら落ちてくる等、たくさんの瑞兆とともに作業に入ったのである。〔韻文省略〕

九、導師と作業者の心得

(p.509) それから仕事に着手した日から、宝のように貴い依怙尊たる導師とその弟子達は、午前には報身の医王仏⁸¹の成就法によって〔薬師如来と一体化し〕、「水銀精錬の」地、作業者 (sgrub po)、容器等全てを智慧の大印契 (phyag rgya) によって加持する。午後は「護法神九部衆」(dam can sde dgu) を召還して障りを払い、作業が完成する過程が途切れないようにする。

ダーキニー⁸²の教誡である「甘露の最勝の薬を成就する法」の掟は厳しく、その分

〔守れば〕加持の効力もあるので、一般の〔人の行なう〕鍛冶の技のごときとはまったく異なるのである。誓願をたて、清潔にすることが肝要であり、体も心も斎戒し、香を焚き、加持力をおろすなどをしただけ甘露もよく仕上がり、障りもないことが目の当たりに認識できるのである。

直接作業に携わるもの⁸³について言えば、作業を行なうものは智慧の技と手の技の状態、作業に熟練しているか否かでは大きな違いがあるので、依怙尊 (導師) の御命令に従い、我等も一生懸命、みなで全ての作業を行ったのである。

十、塩類、「5種類の尿」によって浄化する

(p.509) それから、「3つの辛いもの」の〔入った〕少し湿り気のある粉から水銀を一方に選りわけると、〔袋の中に〕少し残った残渣〔の取り出し方〕は、水で何度も洗って、水面に浮かぶぼんやりしたうすい水銀の皮膜等をこして乾かして、柏櫃の灰⁸⁴でこするとダマになるのでそれを一ヶ所に集める。

塩 (tshva、食塩) とブルトク (bul < bul tog、炭酸ナトリウム、重曹) を絹のふるいでこして細かい粉にしたものを、一掬い⁸⁵サイズの柄杓 (khyem rul < khyem bu) にすりきりに入れて、水銀1両に対して〔塩とブルトクを〕一掬いずつ、合わせて二掬いの中で水を使わない研磨を1日間行い、夕方に塩とブルトクの味だけ温水で洗い落とす。そして、清浄に清められた水銀を鍋に入れる。この段階でも、〔すでに水銀は〕磨いた水晶の鏡のように、〔まわりの〕像をはっきりと映すようになった。〔韻文省略〕

(p.512) それから、5日の間「5種類の尿」と僅かのタルブ (沙棘) のエキス (khu) などによってよく毒を鎮め、こすると、水銀も順次飼い馴らされてきて、欠点の部分が清められ、よい効能が際立ってくる。その間にも温かい清潔な水で何度も洗い、微量の水銀もくっつけていって大きくする。そして夜に汚れが増さないように、綺麗なタルブのエキスの中におく。〔このように〕常にそれらの水銀の作業に思いをはせたのである。〔韻文省略〕

十一、「8つの金属」と「8つの土」を灰にする

(p.513) この間もこれらの作業と併行して「〔毒を〕縛りつける8つの金属」をたたいて蜂の羽 (sbrang gshog) のように薄くして、あるいは粉にして、それらから毒を排出し、浄化する儀式を実践テキストに従って正しく行ない、蓋付きの陶器⁸⁶と二重に蓋をした瓶等の良い器に入れて、鉄のたがで締めて泥で封印して、灰 (sa thab) に火を噴くダテク⁸⁷を間に据える。〔灰の〕下に乾燥した木 (shing skam) で火を起し、炎が下に向かって (mthur < thur du) 渦巻く煉丹灰⁸⁸を設置すると、簡単に灰にできる。

それと関係して「〔毒を〕尽くす8つの土」も、毒を排出して、きめ細かい粉の山にして崩れないようにして、灰にするのである。〔韻文省略〕

十二、「3つの酸っぱいもの」、酒、肉、バターを加える

(p.514) それからまた、宝のごとき水銀を、順に〔1日目は〕様々な塩の粉末の入った浄水 (grungs chu)、冷水、タルブのエキス〔につけ、〕〔2日目は〕牛の尿に「3つの酸っぱいもの」を混ぜ合わせたものと、〔3日目には〕焼土を粉にしたもの⁹³、泥を破碎した (btags < `thag) 粉の水によって〔毒を〕鎮める。

それから、温かい良い酒と、ニンニク (sgog skya) を煮て灰汁をとったエキスで、それぞれ2日ずつで4日の間〔毒を〕鎮める。

そのあと新田のヤクの肉の煮出し汁と、古いバターをお湯で煮立たせて、油分と灰汁をこしたものと2種類の水で、1日ずつ〔毒を〕鎮める。

最初の日から数えてこの日に至るまでに実質16日間かかるのだが、今回は「3つの辛いもの」を混ぜる時に1日余分に揉んだので、17⁹⁴日かかったのである。

これらについて、まず、塩とブルトクから古いバター (mang < mar) の水を加えるところまで、対治 (反対の性質を持つもの) によっていかに〔水銀の毒を〕鎮めるかの旨を述べよう。

底が平らで穴のあいていない鉄の容器に水銀を注いで、座布団のようなしっかりした座に据える。頂に石をつけた杵 (dbyug tho) を石のついた側を足もとにむけて、上には裂けていない木を十字にとりつけて、握りの部分を紐で巻いたものが、器の中で〔水銀を〕混ぜやすい。ガタガタ動かないように、ゆっくり絶えまなく攪拌することに勤しむ。

その間にも、作業を清潔にするための注意事項と、薬と水銀の量等については、教科書となるテキストと現場で受け継がれてきた清らかな実践に従って行なうこと。

人の尿、焼土を粉にしたものまでは2回、酒から古いバターまでは1回〔液を変え〕る。その時何回も清潔で温かい水で洗い、少しの水銀も落とさないようにしっかりとまとめておくこと。

この間も水銀は次第に飼い馴らされていき、功德 (美質) がいっそう増すようになる。その材料として用いた様々な色の様々な調合薬が砕かれ、その粉が芳香を放ち、細かい粒子となって地を覆ったのである。〔韻文省略〕

十三、水銀を煮たたせて浄化する

(p.517) それから、この水銀を汚れない水によって何度も洗い、一ヶ所に置いて、広い方形の土台 (sa stegs) の上に鉄製のしっかりした三脚 (rkang gsum) を載せ、その上には石鍋を置き、中には寒水石 (cong zhi) をきらきらになるまで (phram phrom

< phrom phrom) ⁹⁵ 碾いたものを、指の幅 (sor gang) だけ置いて、その上には「〔水銀を〕消化する5つの脂肪」⁹⁶ を溶かした上に「甘露、栄養の王」(水銀) におわしました。

「3つの酸っぱいもの」の澄んだ汁を注いで器を3分の2まで満たす。3分の1は空にしておいて目盛りのついた勺 (tshad thur) 〔の柄〕によって〔3分の2の高さを〕測る。そして、きめの細かい木綿の布を四つ折にしたもので蓋をし、石鍋 (rdo rje < rdo rdza) の首を糸でかたく縛り、その上に石の蓋で覆っておく。全ての隙間を布と紙でしっかりと塞ぐ。液量を測る勺と差し水 (sab chu < gsab chu) を入れるために、蓋を木綿布とともに親指 (mthe mo) 〔で空けた〕くらいの大きさの穴 (bu ga) を空けて、丸石で蓋をする。その下に、燃料 (me khrol) の火加減によって沸騰 (lhog khol) 状態を維持し、強くも弱くもならないようにして、牛糞燃料を順において、蒸発した分だけ「3つの酸っぱいもの」の差し水を加え、毎朝 (nang < nangs) 〔5種類の〕脂肪の塊を入れる。その間も、吹き上げないように差し水はみな温かくしておく。

一般に〔水銀のまわりでの人や動物の〕行き来きと ('gril 'grul < 'grim 'grul)、特に犬と女がまたいだりする⁹⁷ 等の汚れから護り、4昼夜⁹⁸ の間一心不乱 (yengs med) に輪番で (thun du bcad < thun bcad) 〔水銀を〕煮る作業を行なう。

作業の詳細は、教科書となるテキストと賢者の技 (rtsal) が合わさったたくさんの種類がある。

宝 (解毒水銀) を完成し、火が消えて石鍋が冷えた後に蓋を開けて、水銀を一ヶ所にまとめた時、甘露 (bdud rtsi) のダルヤケン⁹⁹ はヨーグルトのように濃い状態であり、色は秋月のごとくに明らかであった。〔韻文省略〕

(p.520) それから、かくのごとき「大煮たち」¹⁰⁰ をよくした後、ふたたび「〔毒を〕尽くす8つの土」(khams brgyad)、赤烏頭 (bong dmar)、硫黄 (mu zi) の粉末〔を浸した〕「浄水」(sgrungs chu) と「3つの酸っぱいもの」を「黒油 (snun nag)」とともに、〔量などは〕テキストに従い、煮かたは前と同じように丸2日間煮る。それによって、以前の効力が確固としたものとなり、すぐれた美質がいっそう増していったのである。〔韻文省略〕

(p.521) かくのごとく、「中煮たち」をよくした後、偉大なる薬 (烏頭) の粉末を一掬いだけ絹のふるいにかけて、酒に浸して毒をぬいた ('dam `thags) 粉末を乾燥させ、再び石盆で碾いて、「8つの金属」の灰をテキストに書かれた量に従って、巴豆 (dan rog) 油と混ぜた菜種油 (mar nag) を、指の中2つ分の深さになるまで水銀の上に注ぎ、匙加減¹⁰¹ や覆いや火加減は前と同じにして、ゆっくりと、絶え間なく1昼夜煮る。

3種類の煮立ちのいずれの時にも、差し水、火加減、〔水銀を〕取り出す時に沸かした水で何度も洗浄することなどに細心の注意をはらい、水銀が少しでも散逸しないようにする数々の重要な手法と、主 (コントロール) の善説を、医者達は耳の栄養とし

て、心の吉祥結 (dpal be'u) に染みいらせて、作業を行なう。こうして毒素のない水銀が機能するようになり (las su rung)、ヨーグルトのように濃くなり、さした棒が倒れない固さになり、清らかな色は雲のない月ようになった。それらの水銀を1.5シヨ (シヨ=10分の1両) そのまま皆が見ている所で実際に飲んでも、体に栄養がいき渡り、〔水銀なのに〕害にならなかった。この不思議とともに、〔水銀が〕甘露として完成した喜びはあらゆるところに広がっていったのである。〔韻文省略〕

十四、妃と出会わせる (硫黄と水銀を反応させる)

(p.524) それから、水銀を硫黄と混ぜる準備を行なう。地を清潔に美しくして、天窓とか明かり取りの隙間を紙などで塞いで、水銀の毒を鎮める人[※]は戒律を護持した出家が行い汚れを避ける。〔毒を〕鎮める際 ('dur < 'dul) には、最初から最後まで甘露を生成するための常用マントラをずっと調べにのせて唱えながら、火か太陽によって適度に温めた滑らかな石盆の中に、毒を抜いた硫黄の粉末を、水銀と同じ重さだけ絹のふるいでふるって入れ、そのまん中にくぼみ (kyong bu) をつけて、「エッセンスの王 (bcud rgyal、水銀)」を注ぎこむ。乳棒[※]で水分を加えずに研ぐこと¹⁰⁰を2日間行くと、一点の曇りもない虚空の色の如きになる。

それから〔水銀と硫黄の混合物を〕一ヶ所に集めて、前のように研磨する部屋で「〔毒を〕尽くす8つの土」と「〔毒を〕縛り付ける8つの金属」という16種類 (zad 'ching bcu drug) を灰にしたものを、(正しく) 計量した水で研いで、〔灰の粉末を水で研いだ〕浄水を何度も差し水して、ついには残らず (水銀に) 入ったら、水で研ぐ日数は終わる。

その最中にも〔毒を〕鎮めつつ、自ずと水分をとばして (乾かして) 研ぐ法を3日間行い、水面に浮かべたものが、雲のようにぶかぶか浮くまで行う。この後、何年経つとも壊れることなき口伝などにより、甘露が清浄に完成したのである。〔韻文省略〕

十五、薬の包装と命名

(p.527) それから、以上のように様々な努力を通して完成した偉大なる薬を穴の空いてない鹿皮を裏表逆にして入れて、口をしっかりと締め、ラピスラズリ色の絹と緞子の小袋に注ぎこんで、ラベルは絹のカター (lha rdzas) の表面に、“a pa dh'a tu gi ri r'a dza nanti samanta p'urta ku Te pra bha ba panytsa da sha k'anggi ra sambatsa ra brl SHa bha tsai trau ma h'a p'a ka sho dh'a naM bi dhi bhya: / su sho dh'i ta ra s'i ma h'a sh'i ta yu dz'a m'a ra N'a mrl ta rasa ra dz'a sva sti.” とサンスクリットで記し¹⁰¹、それをチベット語に翻訳した「ドカムの地にある須弥山¹⁰²、ガンデン・クンキャブ要塞において、15ラプチュンの水猿 (1872) 年の3月¹⁰³、偉大なる洗浄作業により浄化された水銀、大寒 (grang sbyor chem mo)、不死の甘露、栄養の王、吉祥たれ。」と

いう正式名称を3体の文字¹⁰⁴で記し、ラベルには略称「偉大なる洗浄作業によって浄化された甘露のエッセンスの王」と略して、この正式名称と略名の2つを〔それぞれ〕金と墨で書いて〔水銀に〕名前をおつけて、法要の列において「智慧の大甘露」として加持した。

「これ以後は犬、女が触れたり、日光や外気にさらさない」という誓いや効能の類はテキストにある通りである。

最勝なる依怙尊の栄光の喉から喜びの御言葉の光を賜りながら、一切のものが喜びと謹しみをもって作業して、ついには宝が正しく完成したという喜びの宴を楽しんだのである。〔韻文省略〕

十六、コロフォン

(p.532) この作業の詳細 (rgyus spros < rgyas spros) は、最高の閣下 (ミパンの師コントロール) が口述筆記されたものから知るべきである。この本は当座眼にした様をまとめて、板の上に思い出すままに書いたものである。言葉遣いには正しくない部分もあるかもしれない。〔韻文省略〕

(p.533) 「宝の如き水銀を調合する物語。『希有の不死を成就する耳の飾り』』という本書は、四種の栄光によっていや高い大総監ツェリンベルデンと名高き方が、宝のごとき水銀の、偉大なる洗浄作業を盛大に行った時に、「作業の状態をかくのごとく韻文にしてお話にしたものが必要である」とご命令されたことにより、文殊菩薩、依怙尊たる師ケンツェ・ワンポと最高の指導者コントロールなどのたくさんの聖者のおみ足を頭に戴く福分をえた僧 (bande) ミパン・ギャムツォ、またの名をマティビマラ¹⁰⁵と呼ばれるものが、ふと (thol byung) 思い出したことなどを、手を加えずに文字に起こした。この縁起により、あらゆる方角、あらゆる時、あらゆる場所に、栄光の医学の宝のような教えが、講義・聴講・宣伝の3つによって盛大になり、〔この教えが〕永くこの世に留まりますように。〔韻文省略〕

文献表 (略号表)

『影印北京版西蔵大蔵経』168巻、東京：鈴木学術財団、1955-1961年。

北京番号 『影印・北京版西蔵大蔵経総目録・索引』大谷大学・西蔵仏教研究会編、東京：鈴木学術財団、1962年。

東北番号 『西蔵大蔵経総目録』東北帝国大学法文学部編、仙台：東北帝国大学、1934年。

BDPD rin chen dngul chu sbyor sde phyogs bsdebs. 'ju mi pham, bla sman o rgyan bstan 'dzin, sde dge drung yig guru 'phel and kong sprul yon tan rgya mtsho. (Collected

Works on Mercury Formulations) . Dharamsala : Library of Tibetan Works and Archives, 1986.

RNTJ1 *rin chen dngul chu'i sbyor ba'i rtogs pa brjod pa'i gtam ngo mtshar 'chi med grub pa'i rna rgyan ces bya ba bzhugs so. 'ju mi pham 'jam dbyangs nam rgyal rgya mtsho.* In 『迷旁医著 (mi pham sman yig phyogs sgrig [奥付と表紙、扉で綴りが異なっている])』四川少数民族古籍辦、徳格藏医院、成都：四川民族出版社、1992年、pp.486-533。

RNTJm 同上書。In BDPD, pp.59-121 (fols.1-32a2) .

RNTJ2 同上書。In 'ju mi pham gyi sman yig gces bsdus. 青海省藏医薬研究所、藏医薬經典文献集成編委会編、北京：民族出版社、2006年、pp.325-356。

TKN *bdud rtsi'i bcud kyi rgyal po dngul chu btso bkru chen mo'i sbyor ba'i grub pa'i bcud len tu bsgyur pa'i lag len nam par gsal ba 'tsho byed mkhas pa'i snying bcud. kong sprul blo gros mtha' yas.* In BDPD, pp.393-422 (fols. 1-15b7).

TKK *sman sbyor che chung rnams la nye bar mkho ba'i lcags brgyad dang khams brgyad kyi dug 'don thal sman gyi cho ga 'tsho mdzad mkhas pa'i khyad nor. kong sprul blo gros mtha' yas.* In BDPD, pp.422-441 (fols. 15b7-25a6).

『四部医典』 *rGyud bzhi: a reproduction of a set of prints from the 1888 lHa sa lCags po ri blocks.* (Smanrtsis Shesrig Spendzod, 87). Leh: T.S. Tashigangpa, 1978.

『祖先の教え』 *rgyud bzhi'i 'grel pa mes po'i zhal lung.* 全2巻、北京：中国蔵学出版社、1989年。(mes po'i zhal lung: reproduced from the Lha sa Old Zhol Dga' ldan phun tshogs gling blocks. Ed. O rgyan nam rgyal. Smanrtsis Shesrig Spendzod Series, 100-103. Leh : T.S. Tashigang, 1980.)

『甘露本草明鏡』 *bdud rtsi sman gyi 'khrungs dpe legs bshad nor bu'i phreng mdzes.* 拉薩：西藏人民出版社、1993年。

『三種珍貴藏薬秘方』 *dngul chu btso bkru chen mo dang, lcags khams thal bzo, rin chen ril bu'i sbyor ba bcas kyi lag len nag 'gros su bkod pa zla ba'i 'od zer.* 徳格県藏医院編、成都：四川民族出版社、1981年。

『西藏藏医薬』 西藏自治区藏医薬管理局編、拉薩：西藏人民出版社、2003年。pp.221-227, pp.211-215。

『藏薬晶鏡本草』 *'khrungs dpe dri med shel gyi me long.* 北京：民族出版社、1995年。

『藏漢大辞典』 北京：民族出版社、1985年。

『藏漢曆算詞典』 *bod rgya skar rtsis rig pa'i tshig mdzod.* 成都：四川民族出版社、1985年。

MTK *mngon brjod kyi bstan bcos mkhas pa'i rna rgyan. rin spungs ngag dbang 'jigs grags.* 北京：民族出版社、1985年。

NTB *The Nyingma School of Tibetan Buddhism: Its Fundamentals and History.* Vol.1 : Translations. Dudjom Rinpoche and Jikdel Yeshe Dorje. Tr & Ed by Gyurme Dorje with the collaboration of Matthew Kapstein. Boston: Wisdom Publications, 1991.

dpal bla rung lnga rig slob gling du dngul chu btso bkru chen mo ji ltar bsgrubs pa'i rtogs brjod dang snga 'gyur rgyud 'bum las byung ba'i sman sbyor gces bsdus bzhugs. bstan 'dzin rgya mtsho. bla rung kun phan gso byed khang, 2004.

Tibetan Jewel Pills: The Rinchen Medicine. Jürgen C. Aschoff and Tashi Y. Tashigang. Ulm /Donau: Faribri Verlag, 2004.

TMP *Tibetan Medical Paintings.* Ed. Yuri Parfionovitch, Gyurme Dorje and Fernand Meyer. London: Serindia Publications, 1992.

注

- (1) 本テキストは散文の記述とその内容をまとめた偈の連続から構成されている。韻文と散文の内容はほぼ同じであるので、散文の部分のみを翻訳した。節とそのタイトルは訳者が補ったものである。本テキストは成都で活字で出版された RNTJ1 を底本とし、もう一つの活字本 RNTJ2、と手書き写本の影印本 RNTJm は、適宜参照した。
- (2) 'ju mi pham 'jam dbyangs nam rgyal rgya mtsho (1846-1912)。カム(東チベット)のデルゲ近郊に生まれ、12才でニンマ派の僧院に入門し、師ジャムヤン・ケンツェなどに師事して諸学を極めた。30巻にわたる著作を残し、特に工学、医学、天文学に優れていた(NTB vol.1 pp.869-880)。
- (3) 'phags pa klu sgrub. チベットでは大乘仏教思想の確立者として知られるナーガールジュナ(龍樹)と、『ダヒヤサマージャ・タントラ』の相承者として名高い密教者のナーガールジュナを同一人物と考える。
- (4) ウルゲンバは下ウクパ=カギユ派の法統に属し、当時、カルマ・バクシ(ゲルワ・カルマバ2世)の親族による支配が続いていたカルマ=カギユ派の中で、ランチュン・ドルジェをカルマ・バクシの転生者として見だし、後にチベットで一世を風靡する転生相統の端緒をつけた(高橋誠「カルマバ転生者とツルプ寺座主の関係について」『日本西藏学会会報』第59号、2013, pp.4-5)。
- (5) 'jam dbyangs mkhyen rtse dbang po (1820-1892)。カムのデルゲ近郊に生まれ、21才でニンマ派の大本山ミンドゥルリンの僧院長から具足戒を受け、各地のサキヤ派、カルマ派、ゲルク派、ニンマ派の師を訪れ仏教学や実学を学んだ。無宗派運動(ris med)の創始者とされる。
- (6) kong sprul yon tan rgya mtsho blo gros mtha' yas (1813-1890)。カムに生まれ、ニンマ派の大寺シェチェン寺やバルブン寺の高僧について学び、ケンツェ・ワンボなどの無宗派運動の指導者たちにも師事し、宗派やジャンルを問わずに諸学を極めた。ニンマ派の埋蔵教説を集めて著名な『宝の蔵』(rin chen gter mdzod)の編纂者として名高い。弟子に14世ゲルワ・カルマバ、本テキストの著者ミバンなど多数の著名人を輩出した。
- (7) 帰敬偈は4行1聯からなり、1聯目は文殊菩薩、2聯目はダライラマ12世ティンレー・ギャムツォ、3聯目は諸賢者に捧げられている。
- (8) a tha < Skt. atha. 吉祥の徴としてテキストの冒頭に用いられる不変化詞「全ての病が癒されるように」という意味のマントラである。
- (9) shes bya. 「知の対象となるもの」という意味で「一切法」の同義語。
- (10) phrin las rgya mtsho (1856-1875)。ダライラマは仏の慈悲の顕現である観音菩薩の化身とされる。

ため、「髻れみが形になった」と表現する。「金剛杵を持つ」は一般的に師僧の姿の修辭。

- (11) 外とは物質世界、内とは意識を指す。
- (12) *dus kyi 'khor lo*. 北京番号4番。
- (13) *gso rig bdud rtsi snying po*. チベット医学の代表的な聖典 (GZ)。
- (14) *rdo rje mal 'byor ma < Skt. vajrayogini*. ダーキニーの異名であり、チャクラサンヴァラ系密教の主尊、ヘールカの明妃。
- (15) *'khor lo mgon po*. 文字通りには「マンダラの中尊」を意味する。文脈からミパンの師であるコントゥル・ロドゥーターイエーを指すと思われる。
- (16) *phun sum tshogs pa lnga < phun tshogs lnga*. 大乘仏教でいう「5つの素晴らしい条件」とは、教えが素晴らしいこと (法門満)、時が素晴らしいこと (時門満)、教えを説く師が素晴らしいこと (師門満)、場所が素晴らしいこと (地門満)、教えを聞く眷族が素晴らしいこと (眷衆門満) の5つである。本テキストではこのうち法門満が水銀の美質を説く箇所となっており、さらに、施王門満、〔解毒の〕手段が門満であるという2つを加えて7つの素晴らしい条件の下で水銀の解毒作業が行われたことを説く。
- (17) *'phags nor < 'phags nor bdun*. 「7」の隠語。
- (18) 一般と特殊を対照させる語法。以下の「特に」から特殊が述べられる。
- (19) 『阿毘達磨俱舍論』『世間品』には、世界の中心には須弥山という高山がそびえ立ち、その四方を四大大陸 (四大部洲) すなわち北俱盧洲、南瞻部洲、西牛貨洲、東勝身洲が囲むと説く。
- (20) 古代チベットのソントゥエンガムボ、ティソンデツェン、ティレルパチェンの3人の聖王は、『王統明鏡』 (*rgyal rabs gsal ba'i me long*) を始めとするチベットの史書において観音、文殊、金剛手3菩薩の化身と崇められ3人の法王と尊称されている。
- (21) 東チベットを源流域とするメコン川、黄河、揚子江、サルウィン川の四大大河。
- (22) *yan lag brgyad < yan lag brgyad ldan gyi chu*. 甘く、冷たく、柔らかく、軽く、透き通っており、清浄であり、喉に滯らず、腹に良いという、八つの美質をもつ水。
- (23) *zla chu*. 本テキストで扱った水銀解毒作業が行われたニャロンの地の近くを流れる河は、*nyag chu* であり、チベット名は *shar zla (rdza) chu*、漢名は雅魯江である。
- (24) チベット仏教ニンマ派の祖バドマサンバヴァの密名。
- (25) 現在は四川省甘孜 (ガンツェ) 藏族自治州新龍県。
- (26) 埋蔵教説 (*gter ma*) とは魔仏の時代に備えて古代王国時代にバドマサンバヴァの教えを弟子たちが封印して埋蔵した教説のこと。予言された時に予言された者によって発掘される。
- (27) *mnam snang lo ts'a ba*. 8世紀のティソンデツェン王代にシャーンタラクシタの許で最初に出家したチベット人の一人で、サンスクリット語仏典のチベット語訳に当たった。特にニンマ派の教説を伝えたことで有名。
- (28) *gter bdag gling pa* (1646-1714). ダライラマ5世のニンマ派の弟子であり、埋蔵教説発掘者。1676年に南埋蔵教説の本山ミンドゥルリン大僧院を建立したことで名高い。
- (29) *lang gro lo ts'a ba dkon mchog 'byung gnas. rin chen gter mdzod* 所収の埋蔵教説の発掘者の一人。
- (30) *mdo sngags gling pa*. 本テキストの著者ミパンの師ジャムヤン・ケンツェ・ワンボの埋蔵教説発掘者としての異名。
- (31) *bsam gtan gling pa alias rig 'dzin stag sham rdo rje*. 埋蔵教説発掘者。
- (32) *mthu stobs gling pa* (1858-1914) 異名は *smyo shul a ngag. smyo shul* も東チベットのガンツェの地名である。

- (33) 『阿毘達磨俱舍論』『世間品』において、器世間では須弥山と四大部洲などの環境世界、情世間では器世間の中に生じる六道輪廻の有情が説かれる。つまり、器とその中に入るものという意味。
- (34) *lcags mdud ri nang*. チャクドゥはニャロン (*nyag rong*) の別名である。
- (35) *rtsa gsum*. 加持の根源である師、悉地の根源である本尊、護身の根源である空行母の3つを指す。
- (36) 太陽光が仏教を、月光が政治を指す。それが「一時に輝く」とは政教一致のダライラマ政権がこの地を支配したことを指す。
- (37) 月は施主の命令、太陽はダライラマの命令。それを「頭に巻く」とは「常に念頭に置いて奉じる」という意味。蓮華座とは法官の座を尊称したもの。
- (38) *'brug mo rdzong*. かつては珠母宗の漢名があたっていたが、現存しない。
- (39) 『阿毘達磨俱舍論』『世間品』には、武力ではなく仏教によって国を治める転輪聖王を説く。その生誕とともに輪が出現し、城の東西南北の門から転がり出て四方を征服するとされる。ここではダライラマを転輪聖王になぞらえて称えている。
- (40) *dga' ldan kun khyab chos*. ドゥクモ要塞の官公序としての名称。
- (41) チベット政府の正式名称「四方に勝利した兜率宮」 (*dga' ldan pho brang phyogs las mnam rgyal*) の略称。
- (42) *bod dang bod chen po*. ダライラマ5世の摂政サンゲ・ギャムツォが1697年に記した『瞻部州の一つの飾り』 (*'dzam gling rgyan geig*) によると、「チベット」はチベット12万戸といわれる中央チベットの地にあたる中核地域を指し、「大チベット」は *mnga' ris skor gsum* (西チベット)、*dbus gtsang ru bzhi* (中央チベット)、*mdo khams sgang drug* (東チベット) を含むチベット人の全居住域を指す。
- (43) 「チベット」から「一切智者」までは全てダライラマを指す修飾語である。
- (44) 身体、言語、心の3つが仏の性質を持つことを指す。
- (45) ダライラマを政教一致の長と戴くチベット政府の正式名称。四方に勝利したものという意味。
- (46) *gtsug lag zung*. カンギェル (*'bka' 'gyur*, 経) とテンギェル (*bstan 'gyur*, 論) を指すか。
- (47) 「名声」から「偉大なる」までが大法官ツェリンベルデンにかかる修飾語。TKNには *'jigs med tshe ring dpal ldan dbang gi rgyal po* の名で記されている (TKN, 15b3)。
- (48) *dge bcu'i khirms*. 大乘仏教の戒律、不殺生、不偷盜、不邪淫、不妄語、不綺語、不両舌、不悪語、不貪、不嗔、不邪見の十善戒を指す。
- (49) 「利他が重要である」ことを、「経典による証明」(教証) と「論理による証明」(理証) の両方で示している。
- (50) 勝者は仏を意味するので、仏の子、すなわち菩薩の異名である。
- (51) ミパンの師コントゥル・ロドゥーターイエーの別名。
- (52) *blo gros mtha' yas* は直訳すると「無辺の智慧」となる。予言の中ではこの名前が普通名詞として用いられている。
- (53) 北京番号799番、東北番号131番 (252b4-5)。
- (54) 北京番号775番 (302a5)。
- (55) 北京番号795番、東北番号127番。
- (56) *mchog gyur gling pa* (1829-1870) の埋蔵教説 *rdor sems rtsa rgyud thugs kyi thig le* (4b6-5a1) よりの引用。
- (57) 前者の釈迦は顕教、後者の持金剛仏は密教を説くときの仏の姿。つまり、全ての仏教の教えに

- ロドゥーターイエーが予言されているという意味。
- (58) 智慧の眼と法の眼とは五眼 (spyang lnga) すなわち、肉眼、天眼、般若眼、法眼、智慧眼の内、最後の2つを指す。
- (59) 大馬車 (shing rta chen po) とは、多くの人々を先導する新しい伝統の開祖を指す。
- (60) 『四部医典』第2巻、第31章に、「医者の方因」として「知識があり、考えが深く、戒律を守り、技術が巧みで、仕事に熱心で、人法に通じている。」(rgyu ni blo ldan bsam pa dkar ba dang / dam tshig ldan zhing rnam pa bzo ba dang / bya ba la brtson mi chos mkhas dang) とある。
- (61) 四種の栄光と十善はそれぞれ前注参照。いずれもチベット政府を称える文脈で用いられる修飾語である。
- (62) ベルブンもゾンサルも現在のデルゲ (徳格) 県にある大僧院である。
- (63) kunda dkar po. kunda はサンスクリット語でジャスミン、dkar po はチベット語で「白い」という形容詞で、いずれも白を意味している。『藏漢大辞典』によると「精液」の隠語ともいう。
- (64) 『賢劫経』によると現代は賢劫という時代に属し、この時代には千人の仏が出現する。釈尊はこの千人の仏のうちの4番目に悟りを開く仏なので、我々の時代は「4番目の仏の時代」と言われる。
- (65) 『般若経』は500年を1周期とした10周期の仏教興亡論 (Inga brgya phrag bcu) を説く。我々の時代は戒律が栄えることを特徴とする6期目の500年とされる。
- (66) 火兔年を第一年とする60年1周期の年の単位。
- (67) angira. チベット暦水猿年のサンスクリット語の異名 (MTK, p.760)。
- (68) 釈尊が『カーラチャクラ・タントラ』を説いたのはチベット暦3月の15日である。
- (69) 'byung ba. 仏教においてこの世を構成すると考える地・水・火・風の4つの要素。
- (70) dkar phyogs dga' ba dang po. 朔日のこと (MTK, p.738)。
- (71) tark'ala < Skt. tatkāla. アセンダントのこと。
- (72) 後出の干姜 (sga skya)、葶菀 (pi pi ling)、胡椒 (pho ba ris) の3つ (TKN, 6a6-7)。
- (73) skyur gsum. star bu'i grung chu (タルブの水)、chang skyur (酸っぱくなった酒)、mtshur ser nag gi grung chu (鉄の硫酸塩鉱物) の3つ (TKN, 10b3)。
- (74) kSHa ra lnga. 『祖先の教え』p.627 によると、mi'i dri chu (人の尿)、tsha la'i chu (硼砂水溶液)、ba chu (牛の尿)、mtshur gyi chu (鉄の硫酸塩鉱物を浸した水)、shing tog skyur po'i chu (酸っぱい果実の汁) の5つ。コントロールのテキストでは、8才の少年の尿、青い種馬の尿、赤斑の牛の尿、鉄の硫酸塩鉱物を浸した水、20代男性の尿の5つを用いたことになっている (TKN, 8a5-9a2)。
- (75) zad byed khams brgyad. pha wang long bu (コウモリ石)、gser rdo (金鉱石)、dngul rdo (銀鉱石)、khab len (磁石)、chu skyur rdo (チュキユル石)、ba bla (雌黄)、ldong ros (雄黄)、lhang tsher dmar po (赤雲母?) の8つ (TKK, 16b5-6)。
- (76) 'ching byed lcags brgyad. 金、銀、銅、鉄、青銅、真鍮、錫、鉛の8つ (TKN, 15b4-16a3)。
- (77) srang. 現在の蔵医学院では1両 (srang) を50グラムとしている。
- (78) rtse mo. rtse mo は文字通りには「尖先」であるが、ここでは「3」の隠語として用いられている (MTK, p.747)。
- (79) 師のコントロールは「短くて半日、長くて1日」と記す (TKN, 6b6)。
- (80) sprin gyi myu gu. 文字通りには「雲の芽」。雨の修辭 (MTK, p.471)。
- (81) sman rgyal. 薬師如来の異名。

- (82) mkha' 'gro. チャクラサンヴァラ系のタントラで主尊ハールカの妃となる女尊。一切の女尊の母と言われる。
- (83) gnas skabs nye ba'i rgyu. 文字通りには「当座の直接の原因」であるが、この前の文で作業を大所から司る導師の心得が述べられているので、直接作業に携わるものを指していると思われる。
- (84) shugs thal. コントールのテキストの該当部分では shug (ヒノキ科の針葉樹) と綴るため、その綴りに従って解釈した。
- (85) khyor. 『藏漢大辞典』によると2両であるが、注77で挙げた srang とは異なり、容積の単位である。
- (86) ga'u kha sbyar. インフォーマントのチベット人研究者によると、「2つの容器を重ねて目と目を合わせる」こと。
- (87) me sgyogs kyi drva stegs. インフォーマントのチベット人研究者によると、「おに鉄の棒を網のように組んで、その上に容器を置く」こと。前後の文脈からふいごか。17世紀にダライラマ5世の摂政サンケ・ギャムツォが描かせた『四部医典』の図にも水銀瓶の絵が掲載され、ふいごが描かれている (TMP, p.67)。
- (88) 'phrul thab. 本書の写本のテキストでは「奇跡の方法 'phrul thabs」となっている。
- (89) rdza gyo < rdza rgya. コントールはこの時、sa phag (レンガ) を用いたと記している (TKN, 9a7-9b1)。
- (90) ri gzugs. ri は「7」、gzugs は「1」の隠語であるので (MTK, p.748)、ri gzugs は後ろから前に読んで「17」を指す。
- (91) 該当する韻文部やコントロールの該当箇所には「穀粒のような形」('bru sna' i gzugs mtshungs) とある (TKN10a7)。
- (92) 'ju byed tshil lnga. 人の脂肪、ヤギの脂肪、マーモットの脂肪、羊の骨髄、乳の皮膜の5つ (TKN5b)。
- (93) yugs grib は「未亡人の汚れ」という意味なので、女性一般ではなく未亡人を指す可能性もある。
- (94) nyin mtshan brgyad. 文字通りには「8昼夜」であるが、「昼が4と夜が4」で4日間という意味である。
- (95) dar ya kan. 甘露を意味するシャンシユン語 (『藏漢大辞典』p.1252)。
- (96) btso chen. 以下、中煮たち、小煮たちの順に説明が続く。
- (97) 液の深さを測る時にスプーンに目盛りをつけておくことを指すか。
- (98) 'dul mkhan. コントールの書の対応する箇所には 'dur (粉々に砕く) の綴りで現れる (TKN10a3 'dur khang; TKN13a5-6' dur mkhan, 'dur tshe) ここでは文字通り 'dul で解釈した。
- (99) rdo mdi la < rdo mdil. コントールそのほかの同様の著作の該当箇所では、rdo mdcl, rdo mdil と綴られている (TKN13b1)。研磨に用いる石 (rdo) と思われる。
- (100) 研ぎ方には「乾かして水分を加えずに研ぐ法」(skam 'thag) と「水分で研ぐ法」('dam 'thag) の2種類がある。
- (101) サンスクリット語をチベット文字で転写したもの。可能な限りサンスクリット語に復元すると、apa-dhātu-giri-rāja-nandi-samanta-pūrta-kūṭe prabhava-pañcadaśaka-aṅgira-samvatsara-vṛṣabha-caitra(?) mahā-pāka-sōdhānām vidhibhyah susōdhita-rāsī mahā-sīta-yuja(?)-amāraṇa-amṛta-rasa-rājā svasti. となる。
- (102) 須弥山は『阿毘達磨俱舍論』に説かれる世界の中心にある高山なので、ドカムの中心という

意味か

- (103) khyu mchog nag pa, khyu mchog zla ba と nag pa zla ba は同じくチベット暦3月を指すと暦字辞典にある (『藏漢曆算詞典』 p.157)。
- (104) sum phab. インドのランチャ文字とヴァルト文字、とチベット文字の3体字。
- (105) Skt. mati-vimala. 「汚れ無き智慧」を意味するサンスクリット語でミハンの異名 blo gros dri med に対応する。

巻頭言

目録を読む

論説

秦・漢時代の庶民の識字

『参天台五臺山記』科学記事と北宋应试者数

宋代中央政務の「複式」審査システム——元豊改制を中心に——

清国における戦時国際法の受容

——日露戦争における中立を中心に——

新羅の中央官制における中国王朝の影響について

——中央官司の構成を中心に——

宋代印紙批書試論——新発見の「徐謂禮文書」を例として

中国の漢字文献における「苗」という記述——明清以前を中心に

ラオス独立へむけたラオ・イサラ亡命政府の試み

Lao Issara in Exile — The pursuit of independence —

ミナイ (Madjlis Islam A'laa Indonesia, M. I. A. I.)

の設立過程とその初期組織変遷

祿寔進墓誌訳注

『宝の如き水銀を調合する物語。』希有の不死を成就する耳の飾り』とい

う書』(rin chen dhyul chu'i shyor ba'i rogs pa bryod pa'i gam. ngo mshar

chi med grub pa'i ma rgyan.)

秦嶺山脈西部秦漢三国遺址視察記

盧泰敦著 (橋本繁訳) 『古代朝鮮 三国統一戦争史』

石田 濱川 栄 肇
1 2 27 39

鈴木 展之
68

鄭 東俊
87

魏 勝蘭
276

張 陽子
254

菊池 陽子
235

土佐林慶太
218

古代東アジア史ゼミナール
196

中央ユーラシア歴史文化研究所
126

水間 大輔・柿沼 陽平
157

猪原 達生・峰雪 幸人
170

植田 喜兵成智
277

SHITEKI
史 蹟